

センサー

㈱東レ経営研究所
三島研修部長

宗石

譲

169

今年の新人社員を取り巻く状況は、今まで全く経験したことのないものであった。新型コロナウイルスの感染拡大により、入社式や新人社員研修を在宅やオンラインで実施した企業も多かったようである。

東レにおいても、三月半ばに、急遽、新人社員研修を在宅でのオンライン研修で実施することになり、通信システムの検討・確認・準備、オンライン研修に適したカリキュラムや講義内容の再検討、研修コンテンツや教材の作成など、大変な作業を乗り越え、約一カ月及び研修が実施された。



通常、配属された職場で

さて、例年であれば、四月に入社した新人社員も配属された職場に慣れ、本格的に動き出している時期である。通常、配属された職場で

新人社員とどのように接するか？

職場全員に暖かく迎えられ、歓迎会が行われ、職場での受入教育や先輩や指導員によるOJTで、企業人としての態度やスキルを身に付けて行くが、今年はどうであろうか。

五月下旬に全国の緊急事態宣言が解除されたとは言え、新型コロナウイルス感染防止のため、出社制限や在宅勤務の奨励、出張制限など、様々な対策が継続している。一方で今回の新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、オンラインによる業務が急拡大し、ビジネスのあり方も変化している。

最後に、今回の新型コロナウイルスにより、従来の業務のやり方、ビジネスの仕方が変化してきている、ということである。例えば、従来であればお客様を訪問して行っていた営業活動が、オンラインで行うということになっていくかもしれない。先輩社員が今まで積み上げてきた営業スキルが必ずしも通用しなくなっており、新人社員を指導する先輩社員も何をどう教えるか迷う、ということもあるだろう。ここでは、単なる表面的なスキルではなく、なぜ、その業務を行うのか、本質的な意味や狙いを教えること、たとえオンラインでの業務になっても、その仕事の意義をどう実現するかを考えさせることが大事であると思う。

こうした状況の下、新人社員とどのように接していけば良いだろうか。

が、マスクをつけた顔でPCに向かって黙々と仕事をしており、職場は静まり返り、何となく近くに寄って話しかけたり雑談をしたりしにくい雰囲気があった。もしかすると、現在でもそのような状況であるかもしれない。また、先輩社員との直接の接触が従来に比べ減っていると

ただ、こう考えると、結局は当たり前なことを新しい状況下においてもしっかりとやる、ということなのかもしれない。様々な通信手段も新人社員にとっては何の問題もなく、便利なものと思われる。その意味では、オンラインのツールであっても様々な工夫をして、従来以上に新人社員とコンタクトし、彼らを見守り、職場として大切にしていることをきちんと伝えていくということであろう。

こうした状況の下、新人社員とどのように接していけば良いだろうか。第一に、オンラインで行った新人社員研修のフォローである。様々な工夫をし

ということもあるだろう。唯でさえ質問しづらい新人社員が気軽に質問出来るよう、上司や先輩から従来以上に積極的な声をかけていくことが必要である。